世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University
武蔵野大学 学術機関リポジトリ
Musashino University Academic Institutional Repository

巻頭言：
武蔵野大学への着任と「清風宝樹」の原曲再現

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-06-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小川, 桂一郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/835

巻　頭　言

～武蔵野大学への着任と「清風宝樹」の原曲再現～

教養教育部会部長
小川　桂一郎

武蔵野大学に着任してまもなく、予想もしない嬉しいお話をいただいた。大学礼拝での独唱である。毎週木曜日の昼休みに雪頂講堂で、しかもオルガンの伴奏付きである。これまで人前で歌うことは数多くあったが、いずれも自分の好きな曲だけを歌っていればよかった。ところが、今回は、自分で選ぶのではなく指定された曲を、しかも毎週歌うという、いわば仕事として歌うことになる。歌手になるのが夢であった私にとっては、少しばかり夢がかなったような気分で、ありがたい限りである。

歌う曲は、仏教讃歌で、2、3 週間毎に変わる。仏教讃歌はその存在も知らなかったが、渡された楽譜集『佛教讃歌』[1] を開いてみたところ、100 曲も収録されている。作曲者には、山田耕筰、弘田龍太郎、平井康三郎、中田喜直、団伊久磨といった巨匠の名が見える。すべてピアノ譜が付いているので、それぞれどのような曲なのかはすぐに分かった。当然のことながら、歌詞はすべて仏教の教えであり、なかには、親鸞聖人の言葉そのものもある。いずれの曲も、基本的には西洋音楽のハーモニーとメロディーでつくられており、礼拝などで参会者が一緒に歌えるように、単純で、短く、歌いやすい。その中には、芸術歌曲ともいえる素晴らしい作品もある。

歌うためには、当然のことながら、歌詞の意味をよく理解しなければならないが、私は仏教については何も分かっていない。このため、歌詞に込められている仏教の教えを理解することが、まず必要となった。幸いなことに、仏教学の先生方が身近にいらっしゃるので、分からないことはすぐに教わることができる。おかげで、歌の練習が仏教の教えを学ぶ絶好の機会になった。武蔵野大学ならではの有り難いこととして、感謝している。

この歌手としての仕事をこなすなかで、ささやかではあるが、記録にとどめておきたい成果をあげることができた。高楠順次郎学祖の愛唱歌の一つであった「清風宝樹」の作曲者弘田龍太郎の手稿譜のコピーを、本学高楠メモリアルルームから見つけ、その楽譜にもとづいた演奏を実現したのである。

「清風宝樹」は、親鸞聖人の浄土和讃の一節を歌詞として、弘田龍太郎が作曲した。短くて単純だが、つよく印象に残る名曲である。その旋律譜は本学全構成員に配布されている『礼讃抄』に収録されている。この曲を 6 月の大学礼拝で歌うことになった。ところが、「清風宝樹」のピアノ伴奏譜付きの楽譜は、楽譜集『佛教讃歌』には掲載されていない。弘田龍太郎が旋律だけしか作曲しなかったとは考えられない。どこかに伴奏譜は存在するはずだと私は思った。大学礼拝に関係している方々に尋ねていたところ、『武蔵野大学学院報 MG ライフ』154 号（平成 24 年）に、「清風宝樹」の手稿譜についての報告があるという[2]。さっそくそれを読んでみると、手稿譜は明治学院大学図書館付属日本近代音楽館に所蔵されていることが分かった。手稿譜の写真も掲載されており、混声四部合唱として書かれていること

も分かった。しかし、写真が小さすぎて音は拾えなかった。

そこで、日本近代音楽館に問い合わせたところ、手稿譜のコピーは、すでに請求があって、高楠メモリアルルーム (当時武蔵野大学高楠順次郎資料室) 宛てに送付したという。さっそく同メモリアルルームを探してもらったところ、探し求めていた手稿譜のコピーが見つかった。

2017 年 6 月 22 日、その手稿譜にもとづくオルガンの演奏と歌唱によって、ついに「清風宝樹」のオリジナルのハーモニーが再現された[3)]。それは、浄土で奏でられる音楽の豊かさを愛でるこの曲にふさわしく、まことに美しい響きに溢れるものであった。

大学礼拝での歌唱と手稿譜コピーの探索に際しては、多くの方々にお世話になった。石上和敬先生（教養教育部会）には、大学礼拝での独唱の機会を与えていただき、仏教と歌詞についてのご教示もいただいた。さらに、手稿譜コピーの探索にもお力添えをいただいた。高牧恵里先生（教育学部）には、毎回オルガンの伴奏をしていただいている。志村清美氏（教養教育リサーチセンター）と廣瀬敦子氏（高楠メモリアルルーム）は、手稿譜コピーを見つけ出してくださった。渡辺光乗氏をはじめとする仏教教育部の方々には、大学礼拝のたびにお手数をおかけした。大学礼拝に出席された学生と教職員の皆様は、毎回、私の拙い歌に耐えてくださった。また、ケネス田中先生には、拙文のタイトルの英訳をしていただいた。ありがとうございました。

註

1） 浄土真宗本願寺派教学伝道研究センター、勤式・仏教音楽研究所編『佛教讃歌』（浄土真宗本願寺派本願寺出版社、2004 年）

2）『武蔵野大学学院報 MG ライフ』154 号、12 ページ（2012）

3） オルガン伴奏 : 高牧恵里、テノール独唱 : 小川桂一郎、および全員斉唱。雪頂講堂にて。